

国民皆保険守るため 全力を尽くす

協会は、第59回通常評議員会を5月20日、M&Dホールで開いた。

全国保険医団体連合会・住江憲勇会長が挨拶。

現行の保険証が廃止されようという重大局面だとし、「何が狙われているか。ビッグデータを集積した医療の標準化、すなわち安上がり医療。社会保障個人勘定による社会保障抑制。営利資本によるビッグデータ活用。新たな国民への収奪、搾取のツールだ」と岸田政権を強く批判。保団連、協会、共に地域医療を守るため運動を強めたいと協力を呼びかけた。

議事では、平尾清司副理事長が2021年・2022年度情勢を報告。22年度の改定で「歯科医療ではわずか0.69%の増加。金額にして96億円程度。防衛費に43兆円も費やせば医療費・福祉分野への配分が少なくなるというの必然。低医療費政策には、断固反対していく所存だ」と情勢と協会の姿勢を示した。

そのほか2021・22年度方針や決算、規約・会費規定改定案、理事・監事など、全議案を可決した。①「軍拡・カジノではなく、国民の命、健康、暮らし、最優先の政治へ全力を尽くす」、②「保険証廃止に反対し国民皆保険を守るために全力を尽くす」の二つの決議を採択した。



20日、M&Dホールで答弁する小澤力氏。20日、M&Dホールは、▽地区講習会の講師料について（玉川明弘氏・大阪市東部地区）、▽会員サービスの向上について（平川光彦氏・北大阪地区）などの質問があった。5号議案では、新たに1人の理事と1人の監事・監事（覧を掲載）

3号議案「22年度決算報告、監査報告」、4号議案「23年度予算案」で

第3回理事会 理事長に小澤力氏を選出

協会は、5月20日の第59回通常評議員会で2023年・24年度の理事・監事を選出したことを受け、同日夜に第3回理事会を開き、理事長に小澤力氏（70）を再任した。7期目となる。副理事長には戸井逸美、富本昌之、平尾清司、矢部あづさ、吉田裕志各氏を選出した。いずれも留任。



は戸井逸美、富本昌之、平尾清司、矢部あづさ、吉田裕志各氏を選出した。いずれも留任。

第9回 日常診療経験交流会

参加を呼びかけます

実行委員長 医科協会・井上美佐副理事長

会場は大阪府保険医会館です。近々建て替える本会館で日常診療経験交流会を行うことは最後となります。

テーマはフレイル

テーマは「フレイル新局面」で、フレイルとは「認知機能の低下、加齢や疾患によって身体的、精神的な機能が衰えていく状態です。昨今のコロナ禍の中では、感染して入院したり自宅やホテルに軟禁されたりしたことで、筋力が低下し移動が困難になったり、認知症が進んだりした例が少なくありませんでした。感染しなくてもデイサービスが休止され自宅に籠っていても自立困難になっていった高齢者もいました。高齢者のみならず、普段スポーツで鍛えている若い方がコロナ陽性でホテル療養し、退所する際にはふらついて転倒しかけたという例もあります。また、フレイルには口腔内のフレイルや、眼や耳のフレイルもあるといわれます。コロナ禍の残した傷跡として、全科的にフレイルを考えていくときではないでしょうか。



チラシ同封しています

大いに意見交換を

午前中は分科会が開かれます。先生方が日常的に取り組んでおられる診療上の工夫、地域での活動など、大いに意見交換を。保険医協会の会員の先生のみならず、職員の皆様も参加いただけます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

歯界

シェイクハンドといえは個人同士では仲良くしまし

軍事拡張の島で起きていること

基地がどんどん強化され、軍拡が目の前で進んでいる中、沖縄の人々はどんな毎日を送っているのか。毎月のように裁判の調査のため沖縄を訪問していると、ただ単に怯

え、不安になっている人たちがたくさんいる。それが分かってくる。むしろ私が目に付くのは、自分たちでこの局面を変えていこう、この問題を

解決していこうとしっかり地に足をつけた沖縄の人たちの、抵抗する姿だ。

「話が違うじゃないか」

「戦争放棄」

「話が違うじゃないか」

「話が違うじゃないか」

6/5
2023年第1460号
（毎月5、15、25日発行）



協会顧問弁護士 西晃

「話が違うじゃないか」

「話が違うじゃないか」

「話が違うじゃないか」

「話が違うじゃないか」

「話が違うじゃないか」